地域包括ケアに必要な栄養サマリの作成と活用に向けての取り組み

済生会松阪総合病院NST

背景

当地区では、2008年に松阪地区在宅栄養サマリ (以下旧栄養サマリ)を作成し運用してきたが、その 内容は、胃瘻からの栄養に重点をおいたものであった。

近年、摂食嚥下が重要視され、介護職との連携が必要な時代となり、栄養サマリの見直しが必要となってきた。

目的

地域包括ケアを念頭に入れた、新しい栄養サマリを作成するため、病院、施設、事業所にアンケート調査を行った。

また、新栄養サマリの普及を目的に、意見交換会を行った。

	松阪地区在宅栄養サマリー	
医療機関名: 済	生会松阪総合病院_ より ⇒ 医療機関名:	御中_
自院ID	記 載 日 平成 年月	В
患者氏名	様 診 療 科	
生年月日	主治医	
性別	記載者	
年 齢	歳 ヶ月 □ 有()
身 長	Cm	
体 重	Kg フレルギー歴 □有()
BMI		
	指導家族 続柄:	様
基礎疾患	0 0 0	
	総蛋白 ALB Hb	
主要検査結果	リンパで球数 BUN Cre	_
	子の他	-
必要エネルギー量	BEE kcal TEE kcal	
栄養組成	蛋白 g その他:	
	□ 経□ → □ 自立 □ セッティングのみ □ 全介助	
栄養投与方法	□ 経管栄養 ⇒ □ 胃瘻 □ 腸瘻(□ PEJ □ 外科的) □ E	ED
	□ 経静脈投与 ⇒ □ 中心静脈リザーバー □ 末梢穿刺	
	□ 食事 → □ 普通 □ 軟らかい有形 □ 刻み □ ベー:	자
栄養形態	□ 経腸栄養剤 ⇒ □ 液体 □ 半固型	
7KJR(7/2/04	(固型化剤:)
	□ 経静脈投与 ⇒ □ TPN(高力ロリー液) □ PPN(末梢維持液)	
栄養剤の種類		
投与カロリー	() kcal/日	
投与速度	□ 指定なし □ ()ml/h	
投与量	朝() ml 昼() ml 夜() r	nl
追加水分量(白湯)	朝() ml 昼() ml 夜() r	nl
カテーテルの型式	□ ボタン式 □ チューブ式 (メーカー名:	_)
カテーテルの 種類	□ バンバー型 □ バルーン型 (蒸留水 ml)	
カテーテルのサイス	*	
造設日	平成 年 月 日	
次回交換の時期	平成 年 月 予定	
経静脈投与処方		
	□ 問題なく経過	
	□ 誤嚥/逆流	
		_)
	□下痢	
	対策(-/
 臨床経過特記事項	The state of the s	
~메// 아프,/그가 미니 쿠 카	□ スキント ラブル	
	対策()	
	□ その他 ſ)
		ll l

旧栄養サマリ

胃瘻情報

方法 1

旧栄養サマリの利用状況の調査

当地区の療養型病院、福祉施設、事業所合わせて149施設に対して、

アンケート調査を実施

アンケート内容

- 1. 施設種別
- 2. 記入された方の職種
- 3. 旧栄養サマリの活用の有無
- 4. 旧栄養サマリについて
- (1)経口摂取内容は情報不足と感じるか?必要な情報は何か?
- (2)経管栄養投与方法は情報不足と感じるか?必要な情報は何か?
- (3) 経静脈栄養投与方法は情報不足と感じるか?必要な情報は何か?

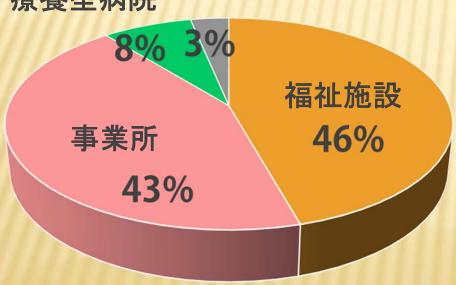
アンケート回収率 64.4% (n=89)

職種: 医師2% 看護師30% 管理栄養士16%

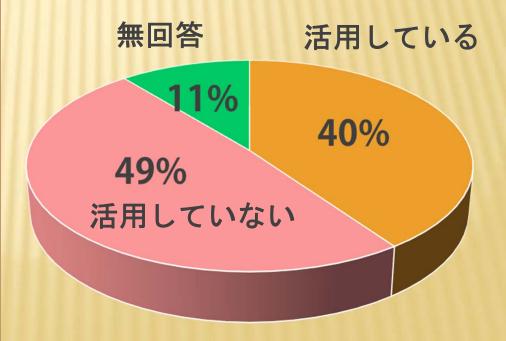
ケアマネージャー44% 介護士3% その他5%

施設種別

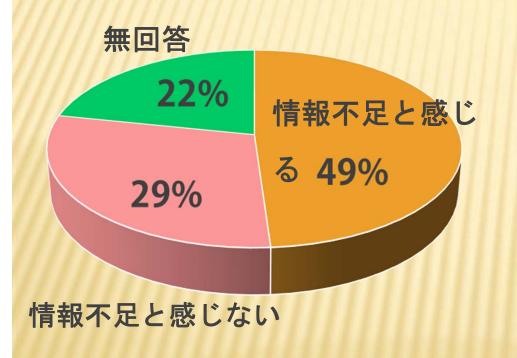
療養型病院 該当なし



旧栄養サマリの活用率



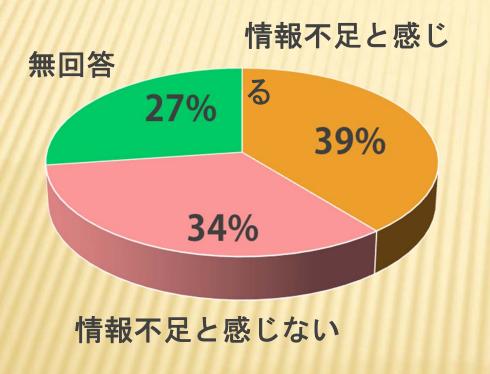
経口摂取の情報について



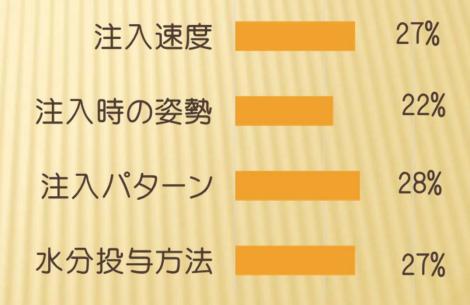
経口摂取で情報不足と感じる内容



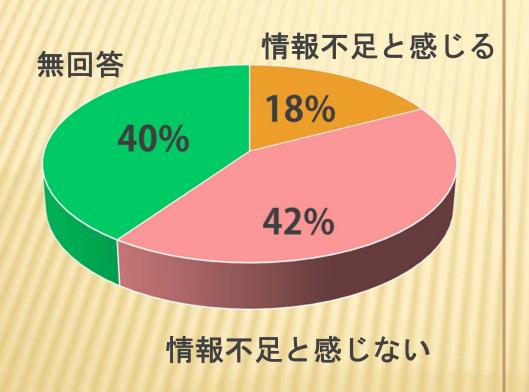
経管栄養の情報について



経管栄養で情報不足と感じる内容



経静脈栄養の情報について



経静脈栄養で情報不足と感じる内容

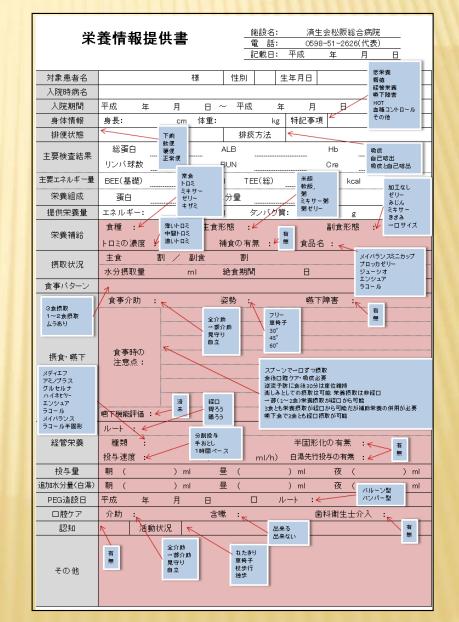


栄養サマリの改訂

旧栄養サマリ



新栄養サマリ



栄養サマリ

~経口摂取について~

_											_
			食事	\Rightarrow	□ 普通		軟らかい	有形	□ 刻み	□ベース	<u>-</u>
	255 ≠ π√.455		経腸栄養剤	\Rightarrow	□ 液体		半固型				
	栄養形態		(固	型化剤:			方法	է։			_)
			経静脈投与	\Rightarrow	☐ TPN(高カロリ	ー液)		□ PPN(末梢	維持液)	
	栄養剤の種類										
	投与カロリー	(_) kcal/	В						

旧栄養サマリ



				•	
栄養補給	食種 :	主	食形態 :	副食形態 :	
不食無相	トロミの濃度:		補食の有無	: 食品名 :	
摂取状況	主食	割 / 副食	割		
经权机	水分摂取量	ml	絶食期間	日	
食事パターン					
	食事介助 :		姿勢 :	嚥下障害 :	
	A = n+ 0				
摂食・嚥下	食事時の 注意点:				
	嚥下機能評価 :				

新栄養サマリ

~変更内容~ 栄養補給、摂取状況、 食事パターン、摂食・嚥下、 口腔ケアの項目を追加。

栄養サマリ

~経腸栄養について~

旧栄養サマリ

栄養剤の種類							
投与カロリー	(_) kcal/ 🖯					
	□ 指定なし] ()ml/	/h		
投与量	朝() ml	昼() ml	夜() ml
追加水分量(白湯)	朝() ml	昼(_) ml	夜() ml
カテーテルの型式	□ ボタン式	□ チュ・	ーブ式	(メーカー名:)
		□ バル	ーン型	(蒸留水		ml)	
カテーテルのサイズ	(_)Fr (_)cm			
造設日	平成	年	月	日			
次回交換の時期	平成	年	月予5	Ē			
経静脈投与処方							



新栄養サマリ

	ルート :								
経管栄養	種類	:				半固形化	上の有無	₹ :	
	投与速度	:		(ml/	h) 白湯先行拍	ひ 与の有	無 :	
投与量	朝 () ml	昼	() ml	夜	() ml
追加水分量(白湯)	朝 () ml	昼	() ml	夜	() ml
PEG造設日	平成	年	月	日		ルート :			

~変更内容~

投与速度、形状、白湯先行投与の項目を追加

栄養サマリ

~口腔ケア・認知症について~

新栄養サマリ

口腔ケア	介助 :	含嗽 :	歯科衛生士介入 :
認知	活動状況		



~変更内容~

認知の有無、活動状況の項目を追加。

栄養サマリの特徴

栄	養	情	報	提	供	書

施設名:	済5	主会松阪	総合病院	2
電話:	059	98-51-26	26(代表)	
記載日:	平成	年	月	日

					_					
対象患者名			様		性別		生年月日			
入院時病名										
入院期間	平成	年	月	日	~ 平)	戎 5	年 月	B		
身体情報	身長:		cm	体重:		kg	特記事項			
排便状態					排	痰方法				
主要検査結果	総蛋白リンパ球				ALB BUN			Hb		
主要エネルギー量	BEE(基础	*)		 kc	al 1	TEE(総)		kcal		
栄養組成	蛋白	-			k分量	(110)				
ルハ不良 皇	I.,,,,					ノンパク	質:			
栄養補給	食種・トロミの濃			主食	形態					
摂取状況	主食水分摂取	量	割/育	副食 nl	割 絶食期		B			
食事パターン										
	食事介即	υh			姿勢	:	赚下	章書 :		
摄食·嚥下	食事時 注意点									
	嚥下機能評	価 :								
	ルート:									
経管栄養	種類 投与速度			(ml/h)	半固形化白湯先行投	この有無 :		
投与量	朝() ml		昼 () ml	夜()	ml
追加水分量(白湯)	朝() ml		昼 () ml	夜 ()	ml
PEG造設日	平成	年	月	日			ルート :			
口腔ケア	介助 :			1000	嗽 :				入:	
認知			状況							
その他										

病院



施設•事業所

病院



施設•事業所

双方向

方法 2

~新栄養サマリについての意見交換~

当地区の療養型病院、福祉施設、事業所から91名の医療関係者の参加にて研修会を開催した。

(病院関係者61名、施設・事業所関係者30名)

研修内容:

- 1・栄養についての講演会
- 2・食事形態、トロミ濃度について
- 3・新栄養サマリについての意見交換会



松阪地区在宅栄養研究会:平成28年3月11日

結果 1

新栄養サマリについての意見

医師	糖尿病、心臓高血圧、腎臓食についての情報検査施行日の記載
薬剤師	<u>錠剤やカプセルが飲むことができるか</u>たんぱく質制限などの記載
看護師	毎食の摂取状況認知情報は具体的にほしい

結果 2

新栄養サマリについての意見

栄養士

- ・食種の項目がわかりにくい
- どんな制限があるか、すべての人にわかる ような記載

理学 療法士

・食事の姿勢、角度を具体的に記載してほしい

介護士

- 事務
- 家族からの情報も記載してほしい
- 本人の好みの記載
- ・在宅で活用するため簡素化してほしい
- ・在宅訪問時の食事メニューなどの具体的 情報

考察

旧栄養サマリは、胃瘻症例中心の内容に傾いており、 摂食・嚥下に関する情報が不足していた。

そのため、地域包括に即する情報交換に必要な新栄養サマリの作成は極めて重要と思われた。

今回、経口摂取と患者状況に視点をおくことで、療養型病院や施設、事業所も記入でき、双方が共通の栄養情報提供書を活用できると考えられる。